

第四回 岡山外科会演説抄録

日時 昭和29年6月13日 午前10時より

場所 津山市公民館

1. 転移性甲状腺腫の1例

陣内外科 田中稔彦・佐藤弘充

昭和27年9月より、左第四肋骨及び右腸骨翼に転移を来した甲状腺腫の一例を経験し、手術を施行し、その後も観察することが出来た。組織像は実質性甲状腺腫であるが、最近では脊椎への転移を思はせる症状を呈している。之らに対して文献的考案も加へた。

質問 津田外科 砂田輝武

転移を伴う甲状腺腫には組織学的に良性のものゝ悪性のものがあるがこれに対する御意見如何。

答 陣内外科 佐藤弘充

組織像が既に悪性像を呈しているものゝみに限らず、良性腫瘍の像であつても、只転移を来す事のみで最近では「悪性」の名を冠する様である。

従つて転移性甲状腺腫は悪性腫瘍として取扱つてよいのではないかと思う。

追加 山崎直治

結節性甲状腺腫の場合に吾々は良性か悪性かの診断を下すことが困難なことが度々ある。悪性のものが相当あるのではないかと考えるが御意見が聞きたい。

答

その点は、別に文献を調べて居りません。

追加 津山中央病院 額田須賀夫

今回の日本外科学会に於て結節性甲状腺腫として手術されたものゝ中に相当なプロセントに悪性化を思はしむるものがあると云はれて居たので私は結節性甲状腺腫は早く手術すべきものと思つて居る。

追加 巨大な骨転移を伴つた甲状腺悪性腺腫の1例

岡山市立市民病院 津田鴻太郎

50才の女、約10年前より左下肢神経痛様疼痛、跛行、徐々に増大する左臀部、左肩胛部の腫瘍を訴え、歩行不能となり、汎発性線維性骨炎と診断、高度に羸瘦し死亡した。剖検にて甲状腺の小豆大の胎児性腺腫或は濾胞性腺腫の組織像を呈する充実性腫瘍数

個と、骨系統の左寛骨部は成人頭大、左肩胛骨は手拳大、左大腿骨々幹部に鶯卵大の該腫瘍の著明な転移巣とを認めた。詳細な検索にて本腫瘍は adenocarcinoma in adenoma と呼ぶべき所見を得た。

2. 血小板減少性紫斑病(ウエルホーフ氏病)における摘脾の効果について

津田外科 菅原保二

平木内科 田村甫

患者は45才の女子、5年前に皮下出血と月経過多症を以て発病し、28年10月に再度皮膚、粘膜出血、関節痛を来し更に脳出血を招来して内科へ入院した。当時血小板数1~3万、出血時間90分以上で輸血等の処置を受け、その間又脳出血を見た。ACTH 340 mg を使用して軽度の血小板増加と出血時間短縮を示して当科へ転科。摘脾後数日にして血小板増加(14万)、出血時間は3分となり2ヶ月後血液検査では正常と大差なく一般状態良好である。骨髓像で術前欠いでいた巨態細胞が出現したことは摘脾の効果を物語っている。

3. 結腸間膜内に発生した巨大なる線維性出血性炎症を伴う多房性囊腫の1例

済生会岡山病院 間野清志

竹政健次郎

10才の少女の横行結腸間膜に発生した巨大な多房性腸間膜囊腫で組織学的に先天性畸型により先天性に存在して居たものに線維性出血性炎症が加わり、急激に内容の増加を来した爲に横行結腸中央部が圧迫せられてイレウス(閉塞性)を起した一例で囊腫摘出術により全治せしめたもので報告致しました。

4. 稀有なる巨大肝臓混合腫瘍の1例

陣内外科 友近茂・田淵崇侍

私共は1才2ヶ月の男子幼児で肝臓に原発した混合腫瘍の1例を経験した。

本症例の主訴は右側腹部腫瘍で、症状発現より死亡まで8ヶ月の期間であり、試験的開腹術によつて初めて肝臓の混合腫瘍であることが確認された極めて稀な1例である。組織学的診断では畸型腫であつた。

尚、従来報告されている18例を加えて比較総括しこれを表示して、いささか考按をこゝろみた。

5. 虫垂膿瘍と誤認せる炎症性リンパ腫の

1例 福渡病院 中西要之助
内海一成
黒住公明

私達は28才、の男子で、右下腹部疼痛を主訴として来院、診察の結果、右下腹部腫瘍、Défense musculaire、白血球増多、Blumberg氏症状、MacBurney氏圧痛点等一見虫垂膿瘍と考へられる症状を具備し、虫垂膿瘍なる術前診断のもとに開腹の結果、虫垂に特記すべき変化なくして、廻盲部の腸管腫瘍を認めたもので、廻盲部の腸管切除術を行い、組織学的検索の結果炎症性リンパ腫なる事を確認した一治験例を報告した。

質問 津田誠次

組織像はありませんか。炎症性リンパ腫の診断は病理の浜崎教授のですか。切除の適応かどうかは疑問ですね。

答 福渡病院 内海一成

組織像は現在詳細検査中です。炎症性リンパ腫という診断は浜崎教授につけて戴いたものです。

答 福渡病院 中西要之助

本症の組織像検査については浜崎教授に依頼し、診断は炎症性リンパ腫でその詳細については目下検査中ですが、文献上廻盲部の炎症性リンパ腫は私の寡聞未だ之を見ず、此後引き続き組織的検索及び文献的考察を行い次回に御報告致したいと思います。

質問 和気郡備前町 中村 詢

虫垂炎と屢々誤診されやすい非特異性単純性腸間膜リンパ腺炎に対する化学療法として何が最も効果的でせうか。

答 津田誠次

個体差があり、又細菌の耐性もあるので各症例に万能的に効くものはない。ペニシリンよりむしろ、エリスロマイシン、オーレオマイシン、アクロマイシン、テラマイシン等使用した方がよい。

6. 総胆管結石に臍意結石を伴った慢性黄疽の1例

津田外科 大森弘介

臍管結石は非常に稀な疾患で外国では三百数十例、本邦にても20例に充たず、而も剖検例多く、手術に

より剔出治癒せしめた例は本邦に於ては本例を加へて4例しかない。

最近津田外科教室で総胆管結石に臍管結石を伴った慢性黄疽(右季肋部疝痛を主訴とする53才の女性)を手術により総胆管結石及び孤立性、表面粗造、白色、拇指頭大、重量0.6gの臍管結石を摘出治癒せしめたのでここに報告し、併せてその考察を試みた。

7. 膝蓋骨粉碎骨折の一治験例

榊原十全病院 小河博之

直接外力により右膝蓋骨粉碎骨折を来した25才男子の患者について、手術的に銀線による骨縫合を行い、膝蓋骨々折治癒後往々に見られる下腿伸展筋萎縮に依つて起る、下肢の運動機能障害を防ぐべく、極めて早朝より、膝蓋骨授動術、下肢筋マッサージによる膝関節授動術を行い、機能障害を残すことなく、治癒せしめた1例を報告した。

追加 児玉俊夫

膝蓋骨々折の予後は必ずしも良くない。膝関節の屈曲制限と、数年後に生ずるデホルモンス様疼痛である。私は膝蓋骨を徒手または観血的に整腹後、膝蓋骨の上下端に平行にキュルシュナー鋼線を挿入し、それをアルミニウム板で固定し、早期の膝関節屈曲練習を行つて良い結果を得た。

質問 津田誠次

鋼線がまがつて疼痛等がおこり、それを抜去せねばならぬことが多いのではないか。

答 児玉俊夫

鋼線は患者が後で抜去してくれと云うことが、かなり多い。アメリカでは心理的影響を考へ絹糸でやることが多い。

特別講演(30分)

整形外科方面よりみた関節リウマチの治療

児玉俊夫教授

8. 肋骨転移を伴った腎臓混合腫瘍の1例

陣内外科 石井 清

腎臓に発生する胎生混合腫瘍の大部分は、5~6才以下の若年者に発生するもので、中年、以上になつて発生した例は非常に少い。我国は最近比較的高年齢の42才の女子に発生し、更に主として内臓器官に転移をきたす本症に珍らしく肋骨転移をきたした1例を経験したので報告する。

9. 肝過誤芽腫の一例

玉野三井病院 戸倉 明・木下公吾

29才、男子で、肝過誤芽腫の中、肝悪性混合腫瘍の1例を報告した。

本例は、特発性に腹腔内出血を起し、腹痛及び腹部膨隆等を招来したのを初発症状とし、其の後の経過には発熱、右肋骨弓部の膨隆及び浮腫性腫脹を始終伴い、発病後67日目に死亡した。

尚、死亡時、腫瘍の大きさは壊死部のみで、27×15×15.5cm、重量 3450g であつた。

追加 津田 誠次

今の自発性出血について、私も以前肝臓腫瘍の20才の女で、開腹術を行つて見ると、その腫瘍より可成り出血していた。これは脊中に枕をおき、つよく反らしたために出血したものと思はれる。

10. 外傷性エオジン好性細胞骨芽腫に就て

津田外科 小見山 宏

18才の男子に於て外傷に起因すると思はれる頭蓋骨のエオジン好性細胞骨肉芽腫の1例を経験したので報告し些か考察を試みた。本症は組織学的にエオジン好性細胞の著しい浸潤を特徴とする骨の良性的疾患であり1950年迄に外国に於て64例、本邦に於ては1950年以後5例の報告がみられる。

追加 御津郡御津町 高浦剛七郎

外傷後発生した骨巨大細胞肉腫の1例を追加する。本症は骨の肥厚と癭瘤とを主徴として頭頂骨より側頭骨に互つて生じた腫瘍である。摘出後再三癭瘤の発作が起つたので再手術をして癭痕を除去した。尚癭瘤の発作があるので欠損骨の整形を行つた処略々満足する成績を得た。癭瘤の治療として減圧開頭の考もあるが、かへつて上記の様な生理的状況にしてやる事も効果を来らす事がある。

11. 外傷後に発生した足背部の肉腫性淋巴管内被細胞腫の一例

日生病院 柳川多喜男

患者は42才の男子。炭坑々内で作業中落盤により左足背部に損傷を受け、其の後3ヶ月して局所に小児頭大の腫瘍を形成した。よつて健康皮膚と腫瘍との境界部を繞つて切開を加へ、腫瘍を皮下組織より鈍的に剝離剔出した。剔出後の皮膚欠損部は肉芽形成をまち、チールシュ氏植皮術を施して治癒した。腫瘍の組織学的検索の結果は Lymphangioma

thelioma sarcomatosum であつた。

本例は外傷の後一定期間を経過して、その局所に腫瘍の発生をみたことより、両者の間に大なる因果関係があるものと考えられる。

12. 虫垂性胃障碍6例について

陣内外科 北山 宏

虫垂性胃障碍患者6例に就き報告し、全例ともに胃、十二指腸潰瘍類似症状を呈し、虫垂炎を思はず症状は示さなかつた。6例中、3例に移動盲腸の合併が認められた。

診断に際しては虫垂炎の既往症、不定の胃症状、廻盲部の精査、レ線所見、胃液検査、等をよりどころとしなければならないが、術前の確定的な診断は困難である。

治療法は虫垂切除術のみである。

虫垂性胃障碍であることを確定するためには長期間の観察を必要とする。

追加 津山中央病院 額田須賀夫

虫垂性胃障碍として以前に手術された患者で手術直後は症状が軽快して居たが暫くすると再び旧の様になつて来た患者で十二指腸空腸彎曲部の狭穿を認め胃切除により治癒した例を追加する。

追加 岡山国立病院 岩藤良秋

胃障碍を伴ふ虫垂炎として手術した例の中、虫垂に変化のないのがある。我々は、Appendicopathia と呼んでいるがその内小腸間膜淋巴腺が小豆大多數腫脹して(非結核性)疼痛の原因をなしていることが非常に多い。

13. パンコースト腫瘍の1例

津田外科 松本外史郎

症例。57才の男子、上腕肩甲部神経痛咳嗽血痰を主訴とし、X線上右肺上野に濃い陰影あり肋骨の破壊像を示す。開胸するに肺上野に手拳大の腫瘍、及肋骨破壊あり組織学的に大細胞癌で、右肺上野に発生した所謂パンコースト腫瘍と診断された。パンコースト腫瘍は其の解剖学的関係から一般肺臓癌と異つた症状を呈し、亦極めて予後の不良な疾患である。

14. 縦隔竇腫瘍の手術治験例

国立岡山病院 金本明久

岡 利幸

津崎雄三

患者は54才の女、農業、血痰及び軽度の胸痛を主

訴として来院し、閉鎖式循環気管内麻酔の下に開胸手術した。腫瘍は前縦隔竇より発生し小手拳大で肺実質とは関係なし。腫瘍を全剔出し手術創は一次的に縫合した。此の縦隔竇腫瘍は単房性複雑性皮様嚢腫であった。術後経過は良好で術後33日にて全治退院した。

追加 津田外科 稲田 潔

昨年津田外科教室で経験した2例の前縦隔洞腫瘍を追加した。第1例は22才男子で集団検診で発見されたので組織学的には胸線癌であった。第2例は30才男子で数年来胸痛、喀痰あり、肺門淋巴腺炎、或は肋膜炎といわれ療養していたが、最近肺炎様症状を起し、同時に喀痰中に毛髪を混じてきたので前縦隔洞の皮様嚢腫と判明した。この例では腫瘍が左上葉前方区の気管支と交通していた。

他に2例まだ手術的に確認していないがレ線的に前縦隔洞腫瘍と思はれるものについて述べ本病に対する一般の認識を喚起した。

14. えの質問

喀血、血痰の症状があるが、腫瘍と肺とは交通していたか？

15. 肺嚢腫の1 治験例

津田外科 稲田 潔・薬師寺 貢

肺の嚢腫性疾患に関する報告は、欧米に於ては可成り多数出されているが、本邦に於ては極めて少く、剔出成功例は未だ1例もない。我々は、微熱を主訴とせる33才の男に、肺膿瘍、気管支拡張症の診断にて、開胸、下葉切除術により治癒せしめた肺嚢腫の1例を経験したので報告する。

16. 胃切除術後に起きた腸間膜動脈性12指腸閉塞症

津山中央病院 額田須賀夫

ビルロート第2法、胃切除、Oralis inf. で Braun

氏吻合を行はずして antecloica の胃腸吻合を行った患者に腸間膜動脈性イレウスを3例起した。これにより次のことが考へられる。

1. 結腸前吻合の場合に、従来横行結腸を押へない様に注意することが必要と云はれて居たが、十二指腸空腸彎曲部を押へない様に注意する必要がある。
2. 腸間膜動脈性イレウスは機械的腸閉塞症である。従来一部の人に云はれて居た様急性胃拡張との関係はないものであるとの実例である。

追加 津田教授

横行結腸が長いときは antecolica は不可の様に思います。

額田君は前説により Braun は要らぬと云われるが1%でも危険があるのでしたら Braun をした方がいゝのではないか？

答 津山中央病院 額田須賀夫

Braun を行くと余計に Mesenterium を圧迫すると考えました。

特別講演 (30分)

胃癌の予後について 津田誠次 教授

昭和17年より昭和27年まで11年間の胃癌患者約700名について、腫瘍認知率、腫瘍の大きさ、位置、肉眼的並に組織学的分類、リンパ節腫脹との関係、深部発育度などに関する統計を行い、さらに根治手術を受けたものの生存率について予後が極めて良くないことを述べ、生存率に影響を与える色々の条件を吟味し、さらに5年以上生存者につき永続治癒をもたらす因子につき考察を行った。そしてかゝる望みを果すには一般の啓発による早期受診、医師の適確な診断、早期根治手術の重要性を強調した。